



穏やかな元日の初日の出とともに令和3年の新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

昨年は新型コロナウイルスが報道される毎日でありました。本年に入り第3波の中で新しい生活様式を取り入れて一人ひとりが責任のある行動を行わなければならぬ今日であります。

一方では、緊急事態においても医療や福祉また、市役所をはじめ公共機関においてエッセンシャルワーカーとして日常生活を守っていただいているみなさまには敬意をささげるとともに感謝申し上げます。

皆様とともに一日もはやい日常生活に戻れますよう願うものであり、同時にそれに向けて取り組んでいかなければなりません。

引き続きの支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

令和一年 第3回定例会(9月議会)

本市の新型コロナウイルス感染対策への取組について問う。



よりかず
ビジョン

これから冬にかけて、インフルエンザの流行が考えられる中、新型コロナウイルスとインフルエンザの処置も異なると聞いています。一層の感染予防対策と感染疑い時の対応が心配です。



質問

現在の本市のPCR検査体制はどのようになっているのか、今後の検査体制の推移についてもお聞かせください。

答弁 健康部長 市内におけますPCR検査が可能な医療機関の公表はされておられません。感染が疑われるような症状や状況がございましたら、かかりつけ医にご相談していただき、必要な検査の

指示を受けていただくようになつております。京都府医師会の協力の下、かかりつけ医からの相談や、ドライブスルー方式による検体採取ができる京都検査センターを3か所設置しております。PCR検体検査に關しても、京都府保健環境研究所や民間検査機関、医療機関への検査機器の追加配備などにより、1日当たり550検体から800検体までの検査が可能になつており、今後につましても、唾液検査ができる医療機関を9月末までに400か所、PCR検体検査は年内に1、500検体に増やすなど、順次拡充される意向とお聞きしております。

は何か実施されているのでしょうか。また、職員は自宅での勤務体制がとられました。このことに課題や評価があればお聞かせください。

答弁 総務部長

職員の感

染防止対策といたしまして、公共交通機関を利用して勤務する職員については、混雑する時間帯を避けて勤務できる時差出勤や、出勤前の体温測定義務づけ、各所属において業務に支障のない範囲でローテーションを組むなどし、おおむね3分の1程度の出勤者の削減の実施、窓口カウンターには飛沫感染防止ボードの設置、微酸性電解水(次亜塩素酸水)生成装置を設置し、各課の窓口カウンター等の除菌を行うなどの取組を行ってまいりました。また、庁内フロアに誘導シールを貼ることにより、ソーシャルディスタンスを確保できる

対策も講じております。

在宅勤務に対する課題、評価でございますが、リモートワーク可能な業務についての仕方、パソコン及びネットワーク環境のセキュリティ対策、機密情報の取扱い、勤務時間や業務の進捗状況の把握方法などが課題であると考えております。

質問 就学前施設を含め、教育施設の秋冬を見据えた換気対策についてのお考えやスケジュールについてお聞かせください。

答弁 福祉部長 保育園、幼稚園などの就学前施設につきましては、厚生労働省の保育所における感染症対策ガイドラインや、文部科学省の学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアルなどに基つき感染症対策を実施してまいります。この秋冬に向けた感染症対策のスケジュール

ールにつきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期しておりますが、定期健診を9月から実施し、園児の健康管理に努めるとともに、換気のための網戸の設置や、プラスマクラスター機能つき加湿空気清浄機を配置するなど速やかに対応してまいります。

質問 当初3か年で行われる事業でありました学校のGIGAスクール構想は本年度1か年で行う事業として急遽予算化されたもので、パソコンやタブレットが行き届くのか、LANの構築やソフトの運用など人的機動力の面からも供給は対応できるのかお聞かせください。

答弁 教育部次長 GIGAスクール構想に係る計画でございますが、文部科学省でも、端末の早期納入に向けた取組として、専用窓口の開設や効

果的な初期設定について示すなどの支援をしていただいております。また、府の共同仕様書に一定沿うことから、何らかの支援も得られるのではないかと考えております。教育委員会といたしましては、できる限り早く子どもたちの手元に端末が届けられるようにしてまいりますと考えております。

質問 このウイルスとしばらくは共存していく覚悟も必要かと思えます。この中で、学校運営も賢くコントロールすることが求められてくると思います。従来に、ソサイエティ5・0時代とウィズコロナという新しい環境が加わります。今後の、また次年度以降の学校運営についてのご所見をお聞かせください。

答弁 教育長 新しい学習指導要領が、今年度の小学校に引き続き、来年度から中学校で本格実施

となります。今回のコロナウイルス感染症への対応の中で、学びの保障やスリム化の取組等で得た知見も踏まえまして、教育課程を見直し一層の改善を進めるとともに、また、教職員の働き方改革により児童・生徒に関わる時間や質を高め、教育の充実を進めていく必要があると考えております。来年度以降の運動会や体育大会等の行事につきましても、その時期や内容の見直しに着手しております。各学校の児童・生徒の生きる力を育むための学校運営を支援してまいります。

まれてきました。その都度、多くの貴重な人命を失い、莫大な経済的、社会的、文化的損失を被り続けてきました。大規模自然災害などへの備えについて、従来の狭い意味での防災の範囲を超えて、まちづくり政策、産業政策も含めた総合的な対応を、国家百年の大計の国造り、地域づくりとして、千年の時を見据えながら行っていくことが必要です。



常任委員会にて川上ダム視察

質問

国土強靱化の理念と目標が国土強靱化推進室より策定ガイドライン第7版で打ち出されています。京都府では平

よりかず

我が国は、その国土の地理的、地形的、気象的な特性ゆえに、数多くの災害に繰り返し苛

八幡市国土強靱化計画

について

成28年に国土強靱化地域計画が策定されています。そして、本年6月に八幡市国土強靱化計画が策定されました。そこで策定期間が令和2年6月となつたのは、何か理由があるのでしょうか。

答弁 総務部技監

これまで安心・安全なまちづくりの取組は、第5次八幡市総合計画に基づく実施計画や地域防災計画など、各種計画により進めてまいりました。しかし、国や京都府の計画策定が進む中、地方自治体の国土強靱化の取組を一層促進するため、市町村が策定した計画に基づき実施する取組み又は、明記された事業については、補助金・交付金を重点配分、優先選択するとされ、令和3年度以降は計画策定を要件化とする方針が昨年国から示されたため、令和2年6月に策定したものでございます。

令和二年
第4回定例会(12月議会)

防災について、特に避難所の事前開設について問う。

**よりかす
ビジョン**

防災ハザード

マップの大谷川、防賀川浸水深想定区画図では、浸水深が約2m近くまで達する地域に隣接する道路などを通過しなければならぬことになっております。早期避難が必要です。しかし、避難所が開設されてなく、施設された状態では、避難所にたどり着いたものの、玄関先で開設まで待ちぼうけとなつてしまいます。避難所は、前日または数日前の開設が必要なことも考えられます。現在の地域防災計画の避難所の開設及び運営の項目では、「市長は、災害の状況により必要に応じて避難所を開設し、被災者を収容保護する」と

ありますが、「災害の状況により」では事前開設に適合さないように読み取れます。

質問

被災者並びに

被災を被る恐れのある者を収容保護するという事前開設の必要性も考慮していただきます。提案いたします。来年の雨季以前に効力が発揮できるようをお願いしたいものです。

答弁 総務部技監

避難

所の開設につきましては、これまでも警報発令時など災害発生前に避難所を開設し、事前の避難をお願いしているところでございます。なお、議員ご提案の八幡市地域防災計画の記載方法につきましては、計画改定時に検討してまいります。

シビックプライドの醸成について問う

**よりかす
ビジョン**

シビックプラ

イドとは単なるまちへの愛着や主体性とは異なり、地域に関わっていかうとする当事者意識であると理解しております。



ポイスカウト
令和3年元旦
国旗掲揚式に参加

質問

本市としてシ

ビックプライドの醸成に向けた進捗についてどのように評価されておいででしょうか。

答弁 環境経済部長

シビ

ックプライドにつきましては、第5次八幡市総合計画の観幸のまち八幡の実現に向けての取組の中、イベント等の状況を見ますと、平成28年度は市が主催した秋の文化財一斉公開ですが、今は観光協会が主体となり、共催し

ている社寺等観光施設連絡会がアイデアも出しながら、工夫して実施する恒例のイベントに成長しております。また、一斉公開や桜まつりに合わせ、市民によるにぎわいづくりということで、平成31年から開催されているさざなみ市や手作り市も恒例の取組として継続いただいているところでございます。東高野街道街角ひなまつりなど以前からの取組もございりますが、先日は、コロナ禍におきましても、市の補助事業であります八幡で買おう応援事業を活用し、男山中央商店街において店主の皆さんが企画したライトアップイベントが行われるなど、当事者が主体となるイベントが数々生まれ、あるいは定着してきている状況からは、シビックプライドの醸成が一定行われつつあるものと感じております。



質問

人口が減少する中、経験豊かな長寿社会が一層進み、本市の魅力に自信を持って発信していただける活動人口の養成にも力を注ぐ必要があるのではないかと考えます。次年度以降のシビックプライドの養成への取組についてお聞かせください。

答弁 堀口文昭市長

八幡

市への愛着と誇り、いわゆるシビックプライドを育んでいくためには、まずは市内外の皆様に八幡市の豊かな歴史文化や自然を知っていただくことが不可欠でございます。

これまで徒然草エッセイ大賞や石清水八幡宮、門前町、茶文化、松花堂弁当、三つの川を五つの角度の物語から八幡市の歴史文化を紹介する八幡ストーリーをはじめとする市の魅力発信に取り組んでまいりました。

徒然草エッセイ大賞に過去最多の応募があるなど、着実に本市の歴史文化の魅力発信につながっていると感じているところでございます。例を挙げますと、八幡市に魅力を感じ、男山団地に住んでこられ、男山団地の再生の取組であるやってみよう会議にも参加されている方が中心となり、竹あかりのイベント施行していただくことができます。また、市内にある七社寺では、新型コロナウイルスの影響により、例年行っているイベント等が中心になる中で、境内の手水鉢に、草花を行ける。花手水を企画していただきました。

このように様々な場面で歴史文化に触れる機会の創出が進んできており、今後も引き続き市民や行政をはじめとした多様な主体が連携協働しながら、これまで以上に八幡市の魅力発信と、シビックプライドの醸成に努めてまいりたいと存じます。また、シビックプライドの醸成には、将来の地域、社会を担う子どもたちの教育も大切であると考えております。スタディサポートやGIGAスクール構想などの教育環境の充実に加えまして、まず子どもたちが自分たちの地域について知ることが大切であると考えております。八幡市内めぐりやふるさと学習館の見学のほか、八幡市子ども会議のような、八幡市をよりよくするために、子どもたちが自ら考え、提案できるといった場を創出することで、自分たちが住んでいるまちの魅力に気づき、歴史文化を知る機会となっており、八幡市への愛着と誇りを育むことにつながると考えております。このような取組を進めていくことが、将来の八幡市における地域づ

くりの担い手の育成につながるかと考えておりましたが、令和3年度におきまして、ウィズコロナ、アフターコロナを踏まえ、このような取組を継続して進めてまいります。

平成28年2月八幡市議会補欠選挙で初当選させて頂き令和3年4月には2期目の折り返し期を迎えることが出来ます。この間、皆さまには大変お世話になりありがとうございます。2期目の後期に向けて更に職責を務めさせていただきますたく所存であります。重ねてのご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

まだまだ寒さ厳しい季節ではございますが、御身体にはご自愛頂きご活躍されますことをご祈念申し上げます。

- 令和3年度 所属委員会
- 都市環境常任委員会 委員
- 議会運営委員会 委員
- 八幡市庁舎整備検討特別委員会 委員
- 八幡市議会活性化特別委員会 委員
- 出向 京都府後期高齢者医療広域連合議会 議員
- 会派 新政クラブ会派 代表

